



小児科の中医学的治療

こどものアトピー性皮膚炎や喘息などが増えるなか、中国医学（以下中医学）はどのような役割を果たしうるか。また、子どもに応用する場合にどのような点に注意や工夫が必要なのか、日本でいち早く小児科専門領域に中医学を取り入れている先生方にご経験を紹介していただきました。

中医学をはじめた訳

| | |
|----|---|
| Q | まず自己紹介をかねて、漢方に取り組むようになった経緯を伺いたと思います。 |
| 岩崎 | 私は今年で大学を卒業してちょうど20年になりますが、小児科では膠原病 ^{*註1} が専門で、小児科の認定医であるとともに日本腎臓学会の認定医です。漢方を勉強しようと思ったのは、SLEと診断された方でも自己抗体が高いタイプと低いタイプ、レイノー現象 ^{*註2} が強い方とそうでない方など、患者さんによってずいぶん体質が異なるのを実感したのがきっかけです。はじめは独学でしたが、8年前から九州中医学研究会の山本廣史先生をご紹介いただき、週1回の勉強会に参加しました。北京中医学学院 ^{*註3} を卒業され帰化された任競学先生から中医学 ^{*註4} を教わり、上海中医学学院 ^{*註3} を卒業された秋山勇人先生の紹介で、中国の教科書を取り寄せそれを使って勉強しています。 |

*註1 膠原病

自己免疫性疾患ともいわれる慢性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス（SLE）など

*註2 レイノー現象

手足の冷えが顕著で青白くなり凍傷になりやすい症状

*註3 中医学学院

中国の医科大学は、日本と同様な西洋医学を教える医学院の他に、中医学（漢方医学）を教える中医学学院とがあります。西洋医学の教育はなされず、まったく別のカリキュラムです。北京や上海の中医学学院は、とくに有名です。

*註4 中医学

漢方、針灸、食養生を含めた中国伝統医学のこと東洋医学とは、日本の伝統漢方で、中国2世紀の著作「傷寒論」をバイブルとしており、中医学とはやや趣を異にしている。

虚弱体質に有効な中医学

| | |
|----|---|
| Q | 中医学（漢方治療）が得意とする疾患にはどのようなものがありますか？ |
| 岩崎 | まずは虚弱体質といわれるような胃腸病を治すことですね。私のアトピー性皮膚炎患者の半分ぐらいが胃腸虚弱がベースにあると考えられます。脾虚 ^{*註5} （胃腸病）の薬は、安中散や小建中湯など比較的甘いですから子どもさんにも飲ませやすいです。 |

*註5 脾虚

漢方の脾は、西洋医学でいう脾臓とは全く別である。中国の五行説により、内臓を5つに分別したことによる。漢方の脾は、現在の消化管を指す。つまり脾虚とは胃腸病である。

季節や変化を重視する中医学

| | |
|----|--|
| Q | 漢方薬のカゼの治療についてはどうですか？ |
| 岩崎 | 本来はカゼの漢方治療はとても有効だと思います。葛根湯や、小柴胡湯加桔梗石膏が適応するものも多いです。ただ子どもは病態の変化が速いので、初めは麻黄湯の証であっても、少し時間がたつと適応できなくなることがよくあります。ずっとひとりの患者さんに付き添ってられないので、漢方薬だけでカゼを治療するのは現実の診療のなかでは難しい面があります。一方、現代医学ではカゼは全部ウイルス性疾患と考えられていますが、中医学的にみると冷えが原因ということも多いですね。気候の変わりめや、夏期のクーラーによる寝冷え、アイスや冷たいジュースによる胃腸の冷えが、冬以外でも結構多いと痛感させられます。 |

よく使う漢方薬

| | |
|----|--|
| Q | こう言うときにはまずこれというファーストチョイス方剤があれば、お教えてください。 |
| 岩崎 | アトピー性皮膚炎では、夏のジクジクした湿熱型には消風散を、冬のカサカサした血虚型には当帰飲子（四物湯加減）を使い分けています |
| Q | アトピー性皮膚炎以外の湿疹はどうでしょうか？ |
| 岩崎 | 口周囲を舐めてベロベロになっているときは、葛根湯が効きますね。葛根湯の葛根は「くず湯のくず」で風邪薬として有名ですが、項背部のこわばり・肩こりにも有効です。 |
| Q | お腹の病気についてはいかがでしょうか？ |
| 岩崎 | 黄連湯は、冬期の嘔吐・下痢・腹痛に効きますのでよく使います。いわゆる寒腹(かハラ)が適応です。「これは苦いけどよく効くからのもでござん。」といって吞ませると、よく効いたと喜ばれます。冬期以外の嘔吐・下痢・腹痛には半夏瀉心湯が有効です。わたしたち現代人はあまり意識していませんが、季節の変化と病態とは関連が深いのです。 |

妊婦のつわりに小半夏加茯苓湯

| | |
|----|---|
| Q | 妊産婦についてはいかがでしょうか？ |
| 岩崎 | たとえば妊婦さんのつわりには、小半夏加茯苓湯が有効です。紫蘇（ソ）や生姜（ショウガ）を上手に使いましょう。 |

アトピー性皮膚炎の中医治療

| | |
|----|---|
| Q | 漢方薬で治療した代表的症例を紹介してください。 |
| 岩崎 | それではアトピー性皮膚炎の3症例を提示致します。 1例目は1998年生まれの子。初診は2歳9ヶ月。基礎疾患に心室中隔欠損があります。アトピー性皮膚炎がかなりひどく全身が真っ赤という状況で来院されました。主に当帰飲子を内服 |

| | |
|--|--|
| | <p>してもらい、ステロイドの外用薬も併用しました。当初 IgE^{*註6}が 7,000 でしたが、半年後には 570 と劇的によくなりました。ご家族は、油物と塩分を多く摂っており、食事療法も奏効した症例です。2 歳なのに上手に漢方薬を内服してくれました。</p> <p>2 例目は 1993 年生まれの男児。1997 年 4 歳で初診。高知の病院に行ったり、青汁、イパデールを飲んでいたがよくなりません。大学病院のアトピー外来にかかっているが、治らないので来られました。4 歳で円形脱毛もあり、部分的に白髪も見られました。カサカサ皮膚には当帰飲子を、夏期には消風散を投与し、ときに抗アレルギー剤や六味丸を、痒いイライラには柴胡清肝湯も併用しました。来院時の IgE は 16,000 ですが、3 年後で 2,700 ぐらいの状態です。乾燥肌はまだありますが、紅皮症やひどい掻痒状態からは脱して、ステロイド外用が不要となりました。脱毛部にも発毛がみられました。</p> <p>3 症例目は 1993 年生まれの男児。山口市の方です。家族全員にアトピーがありますが、患児が一番ひどい状態でした。顔色不良、痩せていて、下痢しやすく食欲は低下していました。喘息発作もあり、IgE は 900 でした。当帰飲子とともに、胃腸が弱いので補中益気湯を開始しました。体重も増えて体調もよくなり、喘息発作も消失しました。IgE は 630 になり、ステロイド外用が必要ないように改善されました。</p> |
|--|--|

*註⁶IgE 免疫グロブリン E アレルギーに関する血液検査
(成人の正常値 < 170、3 歳以下の基準値 < 10)

胃下垂、食欲不振に補中益気湯 冷え性、生理通のご婦人に四物湯加減が有効

| | |
|----|---|
| Q | 先生の症例では当帰飲子を使われることが多いですか？ |
| 岩崎 | 当帰飲子は多くの例で使っています。四物湯加減というのは血虚（カサカサ型）のアトピーによく効きます。冷え性で凍瘡があり、生理痛や頭痛がひどく、肌が冬にかさつく、こんな方には是非おすすめですね。 |

小児中医治療のコツ

| | |
|----|--|
| Q | 子どもに対し中医診療（漢方治療）を行う場合、どのように証の判別（体質判断）をされていますか？問診ができないこともありますよね。 |
| 岩崎 | 問診できなくても血圧を測って脈を取り舌をみるということで対処できます。問診できない部分は、ご両親の体質判断を参考にしております。 |
| Q | 小さい子に漢方薬を飲ませるのは大変なこともあります。飲ませ方は何か工夫していらっしゃいますか？ |
| 岩崎 | まず大人も子どもも診察室で漢方薬の味見をさせて、飲むかどうかを本人に尋ねます。イヤイヤの方には漢方薬は処方しません。3 歳になれば、話をするとだいたい飲んでくれます。もちろん何かを混ぜる方法もありますが、私はそのまま出しています。苦い漢方薬を飲むわけですから、うまく飲めたらほめましょう。 ピカチューやハム太郎のシールをほめるときに渡すのも方法でしょう。 |

食事環境 VS 遺伝子

| | |
|----|--|
| Q | 子どもの食生活をただすのが前提ですね。どうお考えですか？ |
| 岩崎 | 冬でもアイスクリームを食べている家庭が多いのに驚かされます。子どもの舌をみると完全に冷えています。それを注意しましょう。 |
| Q | WHO の調査では、アメリカの中高生よりも日本の中高生の方が、コレステロールが高いという報告が出ています。ご見解はいかがですか？ |
| 岩崎 | 遺伝子の問題もあると思います。わが国は、江戸時代に3度の飢饉を、第2次世界大戦には食糧難を乗り越えました。ご先祖様から現代人には飢餓遺伝子（節約遺伝子）が受け継がれています。日本人の歴史から考えて、洋食化され、飽食の時代と言われる生活になって数十年です。同じ食事をするアメリカ人より日本人の方が糖尿病になる率が高いと言われるゆえんがありますね。 |
| Q | アレルギーと食生活について伺います。乳製品や卵とアトピー性皮膚炎が関連すると言われていますが、どう思われますか？ |
| 岩崎 | 私は卵・牛乳は、アレルギーの血液検査（Ig E RAST）で異常がなくても、用心してくださいと言っています。卵や牛乳にはダイオキシンなどの化学物質が高濃度に蓄積されている可能性が高いからです。どうしても卵や牛乳を食べたいのなら、エサに抗生物質を使っていないような安全なものを探してください。同様に、海の底に棲息するエビやカニにも注意が必要です。 |
| Q | 水問題を含めて、今後の展望と打開策はありますか？ |
| 岩崎 | 免疫学会で Th1/Th2（細胞性免疫/体液性免疫）バランスの研究報告がありました。アトピー性皮膚炎の方は、細胞性免疫が低下しているということです。また、アトピー以外の研究では、日本を含む先進国で細胞性免疫が低下しているが、インドなどの発展途上国では低下していないという報告がありました。この差異は、化学物質とストレスではないでしょうか。21世紀は食品安全性を求められる時代です。 |

植物のエキスをはぐくむ土、その大地を流れる水、農業は重要です。

（伝統医学第16号より抜粋）